

貝塚市立
山手地区公民館

目 次

| | |
|-----------------------------------|------|
| ■年間総括 | 山 1 |
| ■講座・事業 | |
| ◇ 青少年対象事業 | 山 6 |
| 将棋倶楽部 | |
| 百人一首 | |
| フアフアクラブ | |
| 夏の子ども講座 | |
| 里山 de 本と遊ぼう♪ | |
| レッツTRY | |
| ◇ 子育て支援事業 | 山 12 |
| 子育てセミナー（保育つき） | |
| 子育て講座「子育て×自分磨き」（保育つき） | |
| はじめての人形劇 | |
| 親子でクリスマスカップケーキを作ろう | |
| おさんぽかばさんのかんたんおやつ作り | |
| ◇ 成人対象事業 | 山 16 |
| ことぶきクラブ | |
| 笑って歩いて健康長寿（高齢介護課共催講座） | |
| 認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ（高齢介護課共催講座） | |
| ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう（高齢介護課共催講座） | |
| ダイエットボクササイズ | |
| 実用ボールペン・筆ペン講座～美しい文字への挑戦～ | |
| ◇ 共生課題事業 | 山 23 |
| ふれあい料理 | |
| ◇ 文化振興事業 | 山 24 |
| ロビーコンサート | |
| たまねぎ劇場 | |
| アフタヌーンライブ | |
| ファミリーコンサート | |
| 人形劇公演&オカリナ演奏 | |
| クリスマスコンサート | |
| 水間末廣座 | |
| ◇ 人材養成事業 | 山 29 |
| ふれあい料理ボランティア | |
| 保育ボランティア | |
| ◇ 地域連携事業 | 山 30 |
| おさんぽかばさん | |
| 【参考】ほかでもがんばっているよ | |
| 移動公民館 | |
| 木島・東山校区夏休み映画会 | |
| 貝塚三中軽音フェスティバル | |
| 認知症について学ぼう | |
| 山手地区公民館まつり | |
| ロビー活用 | |
| ◇ 団体支援事業 | 山 35 |
| 山手地区公民館活動協議会 | |
| 利用者団体代表者会議 | |

「新型コロナウイルス感染症」は、「コロナ」または「感染症」と表記する場合があります。

令和4年度 山手地区公民館 事業総括

はじめに

コロナ下3年、終息の先行きが見えず不確実な状況の中、社会の変化に合わせて事業を行なった。多くの事業が再開する中、特に公民館まつりは、地域住民の交流の場として役立ち、つながりのある暮らしの良さを再発見した。引続き、市民の暮らしを豊かにできるような公民館を目指す。

活動協議会の運営が過渡期にあり、活動の在り方を再考し、今後の役員選出方法等を議論した。

当館は築30年が経過し経年劣化が顕著であるため、2箇年に亘る大規模改修工事により、安全・安心に利用できる施設の整備に努めた。

1 公民館主催事業

親しみやすい文化・学習活動の場を提供し、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、地域住民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。

<状況・成果>

- ・子育て支援事業兼文化振興事業として、親子で参加できる講座・事業の開催に努めた。
- ・講座参加者は、高齢化・固定化の状況が見受けられる。

<課題>

- ・魅力的な講座、対象とする層が受講しやすい講座開催時間の設定などニーズに合わせた講座の実施に努める。

① 青少年対象事業

- ・子どもが興味や関心をもつ講座を企画し、心身の健全な育成を目指す。
- ・子どもの意見を反映させ主体的な参加意識を高め、継続的な参加につなげる。
- ・大人との異世代間交流をすすめる。

<状況・成果>

- ・「夏のこども講座」は多数の応募があり受講者は非日常を体験し貴重な思い出作りとなった。
- ・「将棋倶楽部」と「百人一首」は通年開催とした。長期間だが継続的な参加があり年明けには予定していた大会の開催が実現した。

<課題>

- ・子どもたちの感想やアンケートを参考に魅力ある講座を開催する。

② 子育て支援事業

- ・親子の絆を深める取組み、家族のつながりや地域力の向上を目指す。
- ・親子が気軽に来館でき、学びや交流ができる場を提供する。

<状況・成果>

- ・「はじめての人形劇」と「親子でクリスマスカップケーキを作ろう」は親子が気軽に来館でき、親子の絆を深める取組みができた。
- ・「子育てセミナー保育つき」は子どもと笑顔で関わるため、叱り方・ほめ方を伝える声かけや笑顔が増えるヒントを、実例を交えて学習した。

<課題>

- ・乳幼児親子の交流の場を設け学習を通して仲間作りを進める。

③ 成人対象事業

- ・新規利用者を増やすため、幅広い世代が関心をもつ講座を企画する。
- ・講座終了後も継続して自主活動につながるよう働きかけを行う。

<状況・成果>

- ・「ダイエットボクササイズ」は新規受講者を増やすため、夜間の時間帯に設定したことで新しい層の受講者が増加した。
- ・「実用ボールペン・筆ペン講座」は講座終了後も自主活動を続けたいとの要望が多かったため、自主活動への働きかけを行なったが、自主グループの発足には至らなかった。

<課題>

- ・今後も幅広い年齢層が公民館活動に関心を持てるような講座を企画する。

④ 共生課題事業

- ・多様な価値観を理解し、様々な立場の人々の交流の場を提供する。

<状況・成果>

- ・障がいのある人が集う「ふれあい料理」はコロナ下でも万全の感染対策をして、今年度は毎月開催することができた。1施設ごとの参加だったので、より一層料理ボランティアと交流を深めることができた。

<課題>

- ・多様なニーズ（国籍、障がいなど）を踏まえ、必要な学びの機会を届ける。

⑤ 文化振興事業

- ・各種団体活動に発信の場を提供し、幅広い世代の参加や自主活動の推進を促す。
- ・楽しさや感動、精神的な安らぎを提供できる行事を開催する。

<状況・成果>

- ・「たまねぎ劇場」は市民グループの発表の場として、実行委員会形式で企画運営を行なった。
- ・「ロビーコンサート」は身近で気軽に生の演奏を楽しむ機会場の場として多くの参加があった。

<課題>

- ・今後も多くの市民参加につながるような新たな企画、イベントを展開する。

2 人材養成事業

- ・経験豊富な人材を発掘し行事への参加協力を働きかける。
- ・ボランティアが自主的に行事に関わることができるような環境作りに努める。

<状況・成果>

- ・子育て講座「子育て×自分磨き」講師として、まちのすぐれもの登録制度を活用した。
- ・講座開催において、「子育てセミナー」「子育て講座『子育て×自分磨き』」「ふれあい料理」で、保育ボランティアとふれあい料理ボランティアの協力依頼を行なった。

<課題>

- ・今後も地域情報を収集して人材の積極的な発掘に努める。

3 地域連携事業

- ・人と人との関係が希薄となる中で人と人を結び付ける支援を行う。
- ・地域の活性化を図るため「移動公民館」などに取り組む。

<状況・成果>

- ・地元の学校や団体と連携し地域活性化につなげるため、「貝塚三中軽音フェスティバル」「木島・東山校区映画会」を開催した。
- ・「移動公民館」として地域に出向き交流を再開し始めた。
- ・「山手地区公民館まつり」を3年ぶりに開催した。

<課題>

- ・日頃から地域との情報交換や地域イベントなどへの協力を努め、地域との連携強化を図る。

4 団体支援事業

- ・自主的に活動している団体を支援し新たな活動グループの育成にも努める。
- ・活動協議会の自主的な活動を支援し環境作りに努める。

<状況・成果>

- ・主催講座を機に誕生したグループの支援を行なった。
- ・活動協議会の活動の在り方や役員体制について検討委員会を立ち上げて、活動の活性化と新たな組織体制を議論した。

<課題>

- ・新たな体制での活動協議会の運営が円滑に進むように支援・協力を努める。

【主催講座・事業・共催事業】

| 事業区分 | 講座・事業名 | 受講者数 | 期間 | 回数 | 延べ参加者数 | |
|--------------------------|-------------------------|-------------------------------|-------------|------|--------|-----|
| 青少年対象事業 | 将棋倶楽部 | 14人 | 5/21～3/18 | 11回 | 94人 | |
| | 百人一首 | 15人 | 4/2～3/4 | 12回 | 105人 | |
| | フアフアクラブ（前期） | 4組 | 4/17～7/17 | 4回 | 90人 | |
| | （後期） | 4組 | 10/23～1/15 | 4回 | | |
| | 夏の子ども講座 | 公民館でキャンプ体験 | | 7/22 | 1回 | 15人 |
| | | ふわふわシフォンケーキを作ろう（中止） | | — | — | — |
| | | ウクレレを楽しく演奏しよう | | 7/26 | 1回 | 7人 |
| | | 親子でヨガ | | 7/26 | 1回 | 7組 |
| | | 夏のぜいたくランチ | | 7/26 | 1回 | 6人 |
| | | 地球にやさしいみつろうラップ作り | | 7/28 | 1回 | 12人 |
| | | きれいな「光の箱」の工作とおにぎりサンドを作って食べよう！ | — | 7/30 | 1回 | 16人 |
| | | 絵本のひろば | | 7/30 | 1回 | 26人 |
| | | マスク生活をかわいく便利に！マスクストラップ作り | | 7/30 | 1回 | 5組 |
| | | ハピネスバコの科学実験 | | 8/1 | 1回 | 12人 |
| | お琴体験 | | 8/6 | 1回 | 9人 | |
| | 木の貯金箱をつくろう！ | | 8/6 | 1回 | 5人 | |
| | みんなで聴こう!! 歌おうみんなで!! | | 8/8 | 1回 | 4組 | |
| | 里山 de 本と遊ぼう♪ | — | 11/19 | 1回 | 62人 | |
| | レッツTRY | 4組 | 通年 | 7回 | 28人 | |
| 子育て支援事業 | 子育てセミナー（保育つき） | — | 5/21・6/11 | 2回 | 33人 | |
| | 子育て講座「子育て×自分磨き」（保育つき） | 9人 | 10/20～12/15 | 7回 | 65人 | |
| | はじめての人形劇 | — | 10/2 | 1回 | 73人 | |
| | 親子でクリスマスカップケーキをつくろう（午前） | 7組 | 12/18 | 1回 | 14人 | |
| | （午後） | 6組 | | 1回 | 12人 | |
| おさんぽかばさんのかんたんおやつ作り（中止） | — | 11/2～12/6 | 3回 | — | | |
| 成人対象事業 | ことぶきクラブ | 33人 | 4/5～12/13 | 29回 | 754人 | |
| | 笑って歩いて健康長寿～足の健康と笑いヨガ～ | — | 5/12 | 1回 | 15人 | |
| | 高齢介護課 共催講座 | | | | | |
| | ①認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ | 10人 | 6/10～6/24 | 3回 | 30人 | |
| | ②ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう | 20人 | 9/29～12/2 | 5回 | 44人 | |
| | ダイエットボクササイズ | 25人 | 5/16～6/27 | 4回 | 71人 | |
| 実用ボールペン・筆ペン講座～美しい文字への挑戦～ | 19人 | 11/11～1/13 | 5回 | 76人 | | |

| 事業区分 | 講座・事業名 | 受講者数 | 期間 | 回数 | 延べ参加者数 |
|------------------------------|------------------------------------|--------------------|------------------------|----------|--------------|
| 共生課題事業 | ふれあい料理 | 10人 | 5/20～3/17 | 10回 | 83人 |
| 文化振興事業 | 第10回たまねぎ劇場 | — | 4/10 | 1回 | 50人 |
| | アフタヌーンライブ | — | 5/1 | 1回 | 85人 |
| | ロビーコンサート | — | 5/17～3/14 | 6回 | 344人 |
| | ファミリーコンサート～ジブリがいっぱい～ | — | 11/13 | 1回 | 152人 |
| | 人形劇公演&オカリナ演奏 | — | 12/17 | 1回 | 50人 |
| | クリスマスコンサート | — | 12/25 | 1回 | 55人 |
| | 水間末廣座 | — | 1/29 | 1回 | 120人 |
| 人材養成事業 | ふれあい料理ボランティア | 6人 | — | 11回 | 66人 |
| | 保育ボランティア | 16人 | — | 13回 | 91人 |
| 地域連携事業 | おさんぽかばさん (前期) (後期) | — | 5/17～6/14 10/4～11/1 | 5回 5回 | 延べ8組 延べ5組 |
| | 移動公民館 東山いきいきクラブ 名越ほほえみクラブ | — | 10/7・2/10 2/8 | 2回 1回 | 40人 12人 |
| | 木島・東山校区夏休み映画会 (午前) (午後) | — | 7/31 | 1回 1回 | 86人 103人 |
| | 貝塚三中軽音フェスティバル (すいてつ沿線魅力はっしん委員会) | — | 9/4 | 1回 | 200人 |
| | 木島校区福祉委員会「認知症について学ぼう」 | — | 2/18 | 1回 | 114人 |
| | 山手地区公民館まつり | — | 10/19、20 | 1回 | 1,123人 |
| | ロビー活用 | — | 随時 | — | — |
| | 団体支援事業 | 山手地区公民館活動協議会 36クラブ | 424人 | — | — |
| 利用者団体代表者会議 (昼の部) (夜の部) | | — | 5/9 | 1回 1回 | 45人 10人 |

【表の見方】

- ・「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加又は1回限りの事業
- ・「参加者数」は延べ参加人数欄に記載、ボランティアにおいては「登録人数」

将棋倶楽部

<ねらい>

子どもたちが将棋に親しみ、将棋を通じて仲間づくりをすすめる。

地域の大人との世代間交流の場とする。

<状況・成果>

5/21～3/18 第3土曜日 全11回 13時半～15時 ボランティア指導者3人

受講者14人（1年生2人、2年生3人、3年生0人、4年生4人、5年生2人、6年生3人）

前回からの継続4人と新規10人が受講した。毎回10人前後が将棋を楽しんでいるが、近年の将棋ブームで問い合わせや体験等で一時は定員15人を超え順番待ちをするほどであった。

年度当初は、継続・新規の受講者の間で、お互い緊張し話すこともなかったが、ボランティアと一緒に対局することで、会話をするきっかけとなり、少しずつ交流が深まった。

一局一局真剣勝負をする姿が見られ、ときにはボランティアと対局し、アドバイスや時々解説をしてもらいながら指していた。投了後の講評を励みに頑張っており、受講者相互が教え合ったりしている姿も見られた。しかし、年齢差や実力差もありすぐに勝負が決着し退屈する子もいて、将棋崩しやはさみ将棋等をしている子もいた。

ボランティアは、高齢化や体調不良や「今はコロナ禍で外出を自粛している」「子どもと接触することでお互い感染させてはいけない」等の理由でやめていく人が続出し、現在講座は3人のボランティアと職員で進めている状況で早急な対応が必要である。

＝新春将棋大会＝

1/14 土曜日 13時～17時

恒例となった山手地区公民館長杯「新春子ども将棋大会」を昨年に引続き行なった。参加申込みは8人だったが、当日体調不良で急遽欠席もあり、4人の受講者で開催した。初戦で負けて泣き続け、それ以降不戦敗になるなどハプニング続きの大会になったが日頃の練習の成果を発揮した。

<課題>

高齢化と減少でボランティアの確保が急務となっている。



百人一首

<ねらい>

百人一首の遊び方・覚え方・上達の秘訣を学ぶとともに、日本の伝統文化に触れる機会とする。異年齢交流を深め、グループづくりを進める。

<状況・成果>

4/2～3/4 第1土曜日 全12回 14時～15時半 受講者15人 講師 野路 義幸

受講者が参加しやすいように開始時間を変更し、7月広報で追加募集した結果、新規参加者の増加につながり、小学生7人、中学生2人、大人（保護者含む）9人で活動している。

個人戦やグループ戦で競い、カルタ取りの他に坊主めくり、トランプ、オセロなども取り入れて親睦を深めている。

全体的なレベルアップを目指そうと「がんばった記録カード」を考案し、その日取れた枚数やがんばったことを記録するようにした。

また、低学年では飽きてくることもあるので、やる気を持たせるようにカルタの配列にも工夫を凝らした。

12月はクリスマス会、1月はカルタ大会を行い盛り上がった。

普段の活動は講師がいないので、毎回の進め方に苦労している。時々講師が来て読み上げると引き締まる。

グループ戦のときの分け方もそのときの参加者層によってその場で判断して決めている。

<課題>

今後も楽しくカルタ取りができるように、受講者とともに進め方を考えていく。



視聴覚室（5月）



和室（1月）

フアフアクラブ

<ねらい>

発達障がいや不登校などの困り感のある小学生とその親を対象に、親も子も小集団の中で自分の居場所を見つけ、その中で自分の意見を発言できる場とする。

<状況・成果>

前期 4/17～ 7/17 後期 10/23～1/15 第3日曜日 全8回 10時15分～11時半

受講者 延べ90人 講師 松本 啓子 ボランティアスタッフ8人（内高校生3人）

今年度は受講者数の増加に向けて、各回参加者を募ることとして広報記事の内容やチラシへの写真掲載などの工夫、口コミでの呼びかけを積極的に行なった。4月は申込みがなかったが、5月以降は徐々に増加した。

内容は毎回創作活動が中心である。事前にスタッフと開催に向けて念入りな準備を重ね、子どもが作ってその場で遊べるものを取り入れている。子どもが自分の力で作れるようにしているが、細かい作業になるとできなくて泣き出す子や親に助けを求める子、逆に親が手伝うと親に任せてどこかに行ってしまう子もいた。講師は、親子の様子を見て、そっと子どもに声かけをし、他の大人のスタッフも見守っている。毎回終了後は、振り返りとして受講者から感想を聞いており、「楽しかった!」という声ほとんどで、ボランティアが入ることにより、子どもはここに来れば親に怒られないし、親にとっても怒らなくてよい楽しい場所となっている。空き缶積みするとき、高く積めない小学生に高校生のスタッフが簡単に積めるようにサポートし、寄り添いながら良い関係を作ってくれていた。

また、講座終了後は、スタッフの反省会を行い「今日の創作は子どもにとって難しかった」「どこまでスタッフで準備しておけばよいのか」「あの子どもの気持ち親の気持ちはどうだったのか」など各自が感じたことを言い合い共有している。

スタッフは創作ということで、スタッフ各自で牛乳パックなどの材料を集めたり、試作品を作る作業に手間取った。

<課題>

講座内容を充実するために、コロナ禍以前のようにクッキングも取り入れていきたい。



夜店ごっこ「魚釣り」自分たちで遊びコーナーを作って楽しみました

| 月日 | 内容 |
|-------|----------------------------|
| 4/17 | ゲーム、ブンブンゴマ作り |
| 5/15 | 動くおもちゃと牛乳パックのロボット |
| 6/19 | 紙飛行機、ストローとんぼ |
| 7/17 | 夜店ごっこ（魚釣り、コインおとし、空き缶積み、射的） |
| 10/23 | 風で動く車 |
| 11/20 | ダンボールや折り紙でこま作り |
| 12/18 | 不思議絵本・飛び出すカード作り |
| 1/15 | ジャンボすごろくを作っておぼろ |

夏の子ども講座

<ねらい>

夏休みに子どもが公民館で様々な体験を通して、新しいことに挑戦し、地域の大人と交流する。クラブとその他グループの協力を得て実施し、大人が現代の子ども知る場とする。

<状況・成果>

7/23～8/8 受講者 延べ 120 人 11 講座【協力団体 10】

協力団体の募集はクラブ協議会から講座募集のチラシを各クラブへ配布してもらい、グループは職員から直接声かけを行なった。講座の企画は協力団体に委任した。

受付が始まりコロナの感染が再拡大した。協力団体からは、実施の可否、感染対策や講座内容の見直し等について問合せがあったが、感染対策を徹底し、講座を実施することとなった。ただし、1 講座のみ講師の都合により中止を決定した。定員数を上回った 11 講座は抽選になった。抽選の際、兄弟や友人同士での当選は難しく、セットで当選しなかった場合は辞退もあった。

●公民館でキャンプ体験 7/22 金曜日 受講者 15 人

職員間の共通認識は「なるべく職員は口を出さない、子どもたちを見守る」であった。体験内容は、火起こし、飯盒炊飯、カレーづくり、焼き板、グループ対抗ゲームとし、グループごとで進行了た結果、友情や絆のような熱いチームワークが形成された。初対面の子どもたちが多かったが、それを感じさせない姿が印象的であった。

●ウクレレを楽しく演奏しよう 7/26 火曜日 受講者 7 人【ククルウクレレ】

クラブ員がマンツーマンで受講者を指導。保護者も数人飛入りで受講し、子どもに負けまいと頑張った。サプライズ企画で、誕生日が近い子どものためにハッピーバースデーを全員で弾き、歌いお祝した。

●親子でヨガ 7/26 火曜日 受講者 7 組【ヨガスマイル】

親子でヨガの基本ポーズを練習した。子どもたちは体が柔らかく、親には難しいポーズも楽しんでいた。足の指を使ってヨガポーズでじゃんけんし、負けると罰ゲームがあり、親子で楽しんだ。

●夏のぜいたくランチ 7/26 火曜日 受講者 6 人【貝塚市地域活動栄養士会】

調理実習前に感染対策や食中毒対策を十分に行なった。家での調理の様子なども話しながら、楽しそうに調理していた。ハンバーガーは一から自分で作る事がなかったようで、盛り付けは難しそうだったが自分で作ったので全員完食した。

●地球にやさしいみつろうラップ作り 7/28 木曜日 受講者 12 人【貝塚スバコ図書グループ】

ラップ作りでは自然に協力し合う姿がみられた。ラップ乾燥中にエコイズ挑戦と SDG s の紙芝居を見た。自己紹介と自宅のエコ紹介の発表は見事なものだった。

●きれいな「光の箱」の工作とおにぎりサンドを作って食べよう

7/30 土曜日 受講者 16 人【ch∞se】

牛乳パック、カラーセロファン、アルミホイルで「光の箱」を作成した。完成すると窓際で光を透かして楽しんだ。おにぎりサンドは用意された具材を自由にのせて食べた。

●マスク生活をかわいく便利に！マスクストラップ作り 7/30 土曜日 受講者 5 組【Anecer*】

カラフルなビーズを選んで、ワイヤーに通していく根気のいる作業だったが、個性豊かなストラップを全員時間内に完成させた。

—青少年対象事業—

● ハピネスバコの実験教室 8/1 月曜日 受講者12人【ハピネスバコ♡】

「水」に関する絵本の読み聞かせでスタートし、内容に対しての質問があった。子どもたちは、緊張の面持ちであったが、実験が始まると、徐々に表情が和らいだ。コップに水とビー玉の表面張力に歓声上がり、水袋では1人ずつ鉛筆を刺し、緊張感を味わった。最後に噴水ポンチを取り分けて食べた。

● お琴体験 8/6 土曜日 受講者9人【邦楽グループ～桜～】

課題曲を模範演奏として、子どもたちみんなで聴いた。お琴の楽器についての説明があり、その後、クラブ員とマンツーマンで練習した。最後は、全員で課題曲を弾いた。

● 木の貯金箱をつくろう！ 8/6 土曜日 受講者5人【木工クラブ】

オリジナルのキットをボンドで接着し、釘で補強する工程で作業を進めた。お互いが補助し助け合えるように2人1組としたが、大半の子どもは独力で組み立て制作した。子どもたちはオリジナリティーに富み、中には残木で植込みや垣根を制作している子もいた。

● みんなで聴こう!!歌おうみんなで!! 8/8 月曜日 受講者4組【コーラスシフォン】

プログラムは3部構成で、タイトルは歌のプレゼント。曲の世界に入りこみ、あっという間に時間が過ぎた。

<課題>

抽選方法の改善とより多くの子どもが受講できるよう講座内容も含めて検討する。



公民館でキャンプ体験



親子でヨガ



きれいな「光の箱」の工作とおにぎりサンドを作って食べよう



お琴体験

里山 de 本と遊ぼう♪

<ねらい>

親子で絵本を楽しむ機会とする。

本を通じて人との交流を図る。

<状況・成果>

11/19 土曜日 10時～12時 参加者62人 共催 貝塚市民図書館、貝塚スパコ図書グループ
開催エリアの設定や立入禁止場所にコーンバーを設置するなど事前に入念な打合せを行なった。
その中で貝塚市立里山交流センターのけやき広場がわかりにくいという意見があり、チラシに場所案内のバーコードを掲載した。広報活動はグループが担い、ライン、ロコミ、チラシで宣伝した。

当日は機材の搬入から各コーナーの設営、受付ではコロナ対策を行なった。来場者はベビーカーを押した家族連れが多く、近くに無料駐車場があり散歩もできる。参加者からは「幸せな気分になった」「またこんな企画をしてほしい」などの声が寄せられた。

各コーナーではスパコ（小さなすばこ型の図書館）の紹介やおすすめの本で交流をした。けやき広場に設置したハンモックは大人気で順番待ちがでるほどだった。ブルーシートに面展台（絵本の表紙がみえるように展示できるダンボール製の台）を置き、親子連れが展示された絵本を取りやすく親しみやすいよう工夫されていた。

ハンドパン（打楽器）体験コーナーではやさしい音色を奏でて楽しんでいた。

最後に各自が当日折った手作り紙飛行機を持ち寄って飛ばした。終了後、同センターへスタッフが移動し感想を言い合い、当日の振り返りを行なった。

<課題>

次年度も開催を目指し、スタッフと話し合いを重ねていく。



レッツTRY

<ねらい>

中高生のグループ活動（音楽やダンス、創作活動など）を支援する。

<状況・成果>

グループ登録は4組、延べ7回の音楽室の利用があった。中高生グループ活動の利用度の高い音楽室であるが、コロナ禍の影響もあり利用回数は少数であった。

<課題>

コロナ禍での活動制限。

事業の周知方法。



子育てセミナー（保育つき）

<ねらい>

子どもと笑顔で良い関係を築いていくために、発達過程や子育ての不安や悩みを解消できるヒントを学ぶ機会とする。

<状況・成果>

5/21、6/11 土曜日 全2回 13時半～15時半 受講者 延べ33人 保育の子ども 延べ10人
講師 藤川 典子（子どもの発達相談室あおいとり室長、言語聴覚士）

テーマ「子どもと笑顔でかかわるために～いつもがんばっているあなたへ～」

「子どもと笑顔でかかわるために～そうだったのか!理由がわかると対応が見えてくる～」

1回目は、叱り方・ほめ方の伝わりやすい声かけや笑顔が増えるコツやヒントについて、事例を出してわかりやすく説明があった。

子どもの言葉を講師が代弁して受講者（親）に伝えると、各自の子育てと照らし合わせ、笑いが絶えなかった。「小学低学年まではおさるのジョージと思うこと」という話を聞いた受講者は、「なぜ子どもがそんなことをするのかと思っていたが、大人には理解できないことをするのが子どもだと思うと気持ちが楽になった」という感想があった。

2回目は、子どもの行動の原因を脳の仕組みから解き、理由がわかると対処方法が見えてくることを学んだ。親が叱ったときに子どもが顔をそらしたりする行動は、「子どもの頭がピーポー・ピーポーとなってどうしたらいいかわからずそういう態度をとるのだ」という話を仕草を交えて説明してくれた。

毎回終了後は、座談会を開催した。個人の悩みを相談する場ではあったが、他の受講者も共感することができた。

乳幼児をもつ親に是非聞いてもらいたい内容であったが、子育て中の親は少なく、学童指導員などの子育て支援者が多かった。

《受講者の感想》

- ・あるある、そうそうという言葉が多くて聞きやすかった。笑いながら聞けるっていいですね。
- ・脳の仕組みのお話は初めて聞きました。まずは、子どもをおさるのジョージとしてみる。叱るときは“こうして欲しかったよ”“こうしたら”とかセットで言う。相手にやってもらいたかったら親も頑張らないと。親自身も考えるところをさぼっていたと思う。もう少しだけ“考えて”伝える努力をしようかなと思う。
- ・快・不快の話で、子どもの行動に意味がある、原因があるということ、落ち着いて考えることができました。お話を聞いているうちに“もう手遅れかな”と思ったりもしたのですが、やっぱり最後の方のスライドの絶対的安心感、基本的信頼の土台に戻ると思えばやり直しは効くのだなとホッとしました。

<課題>

より多くの方に参加してもらえるよう宣伝方法を検討する。



子育て講座 子育て×自分磨き (保育つき)

<ねらい>

母親の学びの機会とする。

子育てに関する情報や悩みを共有できる場とする。

<状況・成果>

10/20～12/15 木曜日 全7回 10時～11時半 受講者9人 保育の子ども8人

募集定員の12人を下回り、日によっては欠席者が多いことが想定できたので、参加者を募って、途中参加の受講者を受け入れた。

初回のオリエンテーションでは、今後の保育が円滑となるよう受講者と保育ボランティアの顔合わせを行なった。乳幼児の不安が少しでも和らぐことを期待した。

講師の熊川さんの講座では、世間で多用される「HSC」などの正しい知識の習得やワークシートを使用して受講者同士がコミュニケーションを図る回となった。また、講師の植田さんの講座では、将来自分が一步を踏み出すきっかけづくりになった。

最終回では、ゲストの三上さんの演奏を鑑賞したり、保育を受けている子どもたちの映像を皆で視聴した。保育ボランティアから保育中の子どもたちの様子が伝えられた。

《受講者の感想》

- ・リフレッシュできて、保育もしてもらえてありがたかったで
- ・娘の心身共に成長が見られ、私自身のリフレッシュもできて良かったです。
- ・子どもが楽しんでいる時間を過ごせて、私も少し成長できていいことばかりでした。



<課題>

子育ての学びを意識した講座づくり。

受講者同士の交流する場づくり。

| 月日 | 内容 | 講師・協力 |
|-------|----------------------------------|-----------------------------|
| 10/20 | 講座・保育説明 | 保育ボランティア・相互 |
| 10/27 | 繊細な子ども HSC ってどんな子ども？ | 熊川サワコ (市民活動グループほくせつマメの木) |
| 11/10 | 「わくほめワーク」肩の力を抜いて比べない子育てもいいよねえ | 熊川サワコ (市民活動グループほくせつマメの木) |
| 11/17 | 一步踏み出すあなたの、勇気スイッチを入れるワーク | 植田由貴子(有)ユースクリエイティブ・デザインスタジオ |
| 12/1 | 年末に向けてお金も時間もかけない節約そうじ術 | 藤田真由美 (まちのすぐれもの登録) |
| 12/8 | 子どもの食と栄養 ～食事準備を簡単に、冷凍作り置きのコツ～ | 立石麻梨 (管理栄養士 みらいレシピ主催) |
| 12/15 | クリスマスコンサート | 三上撰 (ゲスト鉄琴奏者) |

※ HSP (Highly Sensitive Person)・・・生まれつき非常に感受性が強く敏感な気質を持った人。

HSC (Highly Sensitive Child) は、HSP の子ども時代。

はじめての人形劇

<ねらい>

人形劇を通して親子で生の舞台にふれる機会とする。

<状況・成果>

10/2 日曜日 10時～11時半 参加者 73人

出演 人形劇団クラルテ

演目 「トウモロコシはだれのもの」

「絵姿によぼう」

今年で7年目になる事業。昨年はコロナ対策として定員を80人にしたが、感染対策が定着していることもあり定員を100人にした。受付の段階で乳幼児を連れての参加の問い合わせが数件あった。

当日、乳幼児を連れてきた家族が大半を占めていたが問題なく観劇できた。

客席の配置は、劇団スタッフと子どもの目線になり確認し、前方は子ども席、後方は保護者席とした。背景や登場人物に仕掛けがあり、早変わりの演出等で参加者を楽しませた。参加者は、近隣5市町からの参加もあった。

<課題>

今後も幼児向けの人形劇を企画し、親子で楽しめる機会を継続していく。

市民への周知方法。



親子でクリスマスカップケーキをつくろう

<ねらい>

子どもをもつ親（若い世代）に公民館を知ってもらうきっかけとする。

親子と一緒に過ごす時間を提供する。

<状況・成果>

12/18 日曜日

10時～12時 幼児親子（3歳～）受講者7組、14時～16時 小学生親子 受講者6組

午前の部は子どもの集中力を考慮して、座って説明を聞く時間を取らずに進行した。父親の参加が2組あり、同じ班にしたことで受講者（親）同士の交流が図られた。

午後の部は時間に余裕があったため、カップケーキをオーブンで焼いている間、レシピに対する質問タイムを設けた。

午前午後ともに時間を120分としたが講師の手際の良い進行で滞りなく終了した。

《受講者の感想》

- ・子どもと2人の作業がないのでよい機会だった。
- ・家ではあまりすることがない貴重な時間だった。

<課題>

引続き幼児親子が参加できる講座を実施する。



おさんぽかばさんのかんたんおやつ作り

<ねらい>

簡単なおやつの調理実習をしながら参加者同士の交流。

子育ての悩みなどを共有する場とする。

<状況・成果>

11/2・29、12/6 火曜日 全3回 10時～12時

おさんぽかばさんで提供している手作りのおやつが好評であったので、今回講座開催を予定したが、申込みが1組（市外）だったためボランティアと相談し中止とした。

<課題>

参加者が増えない理由を考え、内容の見直し等開催に向けて検討する。

ことぶきクラブ

<ねらい>

65歳以上対象の講座で、受講者自ら企画したことをみんなで協力しながら取り組む。

生き生きとした高齢期を過ごせるよう、受講者同士で支え合う関係づくりをすすめる。

<状況・成果>

前期 4/5～7/12 後期 9/6～12/13 火曜日(全29回) 10時～11時半 受講者 33人(内新規6人)

共に学ぶことの楽しさを伝えるため、講義、レクリエーション、健康体操を取り入れた。コロナ禍でバスの利用を控え、ヤクルトのオンライン社会見学を体験。説明で「福島工場とつながりました」と聞き、大阪の福島と勘違いをした受講者もいた。オンライン見学に慣れていなかったため、不思議な感じを受けたようだ。

染色体験では、和紙が想像もしていない模様や色に染まり感動していた。染色した和紙でちぎり絵を作り、トイレットペーパーの芯に巻いてペン立てや眼鏡立てを作った。和紙をちぎるときのコツを教わり、手先の運動にもなると好評であった。

視覚障がい者の創作落語では、講師が“見える世界 見えない世界”をテーマに健常者にどうかかわってもらいたいかを自身の体験談をもとに楽しく話してくれた。「階段は数えながら降りるので最中は声をかけないでほしい」、「行先で迷っているときは、立ち止まって白杖を左右に振っている、そんなときは助けてほしい」など具体例を出してわかりやすく説明してくれた。受講者からも質問があり、障がい者理解につながった。

班活動を充実するため、リーダーを決めて一部のプログラムを班ごとで企画。当日の運営も班のメンバーで進行。事前にメンバーでリハーサルをしたり、茶話会の準備をする中で、お互いに話し合うことを体験することで、絆も深まった。また、高齢化で運転免許証を返納した受講者もいたが、受講者間で送迎を担ってくれる人もいた。受講者の要望を聞いて取り組んだ野外活動(みかん狩や寺内町めぐり)は、参加者が少なかった。少なかった理由は、“足が痛い、歩きたくない、一緒に話しをする人がいない”であった。職員は「みんなで決めたのだから行きましょう。車でピストンしますよ」と再度呼びかけを行い、「私が話し相手になるよ」と誘ってくれる受講者もいた。

今年度は、体調不良やケガなどで辞める人もあり、受講者は最終28人となった。

<課題>

コロナ禍以前の野外活動ではバスを利用していたときもあったので再度検討する。

野外活動を企画する際は、事前に参加者にアンケートをとり、参加の意思を確認することが必要である。



介護予防でタオル体操

ことぶきクラブ年間プログラム

| 月日 | 内容 | 講師 |
|-------|------------------------------|-------------------------------|
| 4/5 | 開講式 オリエンテーション・6点セット | 相互 |
| 4/12 | 共に学び・楽しみ・生きる～いつまでも元気に若々しく～ | 和歌山大学名誉教授 堀内秀雄 |
| 4/19 | グランドゴルフ | 相互 |
| 4/26 | SDGsってなあに？ | 中央公民館職員 中川知子 |
| 5/10 | ビデオ鑑賞「こんばんは」夜間中学を舞台にしたドキュメント | 相互 |
| 5/17 | 「アワー・ホーム」(水間鉄道を舞台にしたドラマの舞台裏) | 映像作家・水間鉄道委員会 茂野隆之 |
| 5/24 | さあ、班単位で企画しよう | 相互 |
| 5/31 | ヤクルト出張オンライン社会見学(福井工場) | 近畿中央ヤクルト販売株式会社 保育広報課 戸川真早美 |
| 6/7 | 健康体操 | 金曜ストレッチ講師 坂上紀子 |
| 6/14 | 6点セット | 相互 |
| 6/21 | あなたは何色に染めますか？染色に挑戦 | 松本啓子・河添純子 |
| 6/28 | 1班の企画したことに、みんなで挑戦『卓球バレー』 | 相互 |
| 7/5 | 2班の企画したことに、みんなで挑戦『折り紙・茶話会』 | 相互 |
| 7/12 | 染色した和紙でめがね立てを作ろう | 松本啓子・河添純子 |
| 9/6 | 時事最前線 | 経済評論家 中田進 |
| 9/13 | 3班担当 数字合わせ・マジック | 相互 |
| 9/20 | 6点セット・木工(貯金箱作り) | 相互 |
| 9/27 | 介護予防(脳トレ、体操など) | 山手地域包括支援センター 山田善子 |
| 10/4 | 里山交流センター・森の小径 | 案内人 則岡耕治 |
| 10/11 | 人生100年時代！くらしに役立つ睡眠と健康の知恵袋 | 明治安田生命 |
| 10/18 | 貝塚の歴史 | 貝塚市郷土資料室職員 |
| 10/25 | みかん狩(井川みかん園) | 相互 |
| 11/1 | 5班担当寺内町めぐり&貝塚駅前ポートフォリオ昼食 | 観光ボランティア |
| 11/8 | 6点セット・ゲーム | 相互 |
| 11/15 | やさしい水墨画 | 相互 |
| 11/22 | 4班担当グランドゴルフ | 相互 |
| 11/29 | 落語「見える世界 見えない世界」 | 邪乱亭地車 |
| 12/6 | 卓球バレー・百人一首 | 相互 |
| 12/13 | おやつ作り(ホットケーキとコーヒー)で座談会 | 相互 |

(補足)

6点セット：認知症予防のために、①つげさん体操②つげサンバ③南京玉すだれ

④花笠音頭⑤皿まわし⑥よさこいを取り入れている。

笑って歩いて健康長寿～足の健康と笑いヨガ～（高齢介護課共催）

<ねらい>

健康づくりを目指して、笑いで免疫力の向上につなげる。

第2の心臓といわれる足裏の話聞いて、生涯自分の足で歩けるように全身の健康づくりにつなげる。

<状況・成果>

5/12 木曜日 13時半～15時 受講者 15人 講師 池川 成子（日本笑いヨガ協会）

講師から笑いヨガの効果についてスライドを見ながら説明があり、実際にマスク越しではあるが笑いヨガを体験し、受講者全員で笑って心身ともにリフレッシュすることができた。

また、足と靴の話では、足裏の健康や靴の選び方について話があり「出かける前に靴のために1分間だけ時間をとってほしい」という講師の言葉に受講者は納得している様子であった。単発講座であったが、連続講座への要望があった。

<課題>

今後も健康づくりにつながるような取り組みを継続していく。



高齢介護課 共催講座

<ねらい>

介護予防・健康づくりに役立て、地域で推進していくために高齢介護課と連携して取り組む。

①認知症予防にもなるスマホでイキイキライフ

<状況・成果>

6/10・17・24 金曜日 全3回 13時半～15時 受講者10人

講師 パソコン教室「らいく」専任講師

応募者13人で抽選を行い、受講者10人を決定。高齢者がスマホの活用方法を学び、生活に役立つ情報や介護予防につながる情報を得た。昨年度の課題を受け、スタッフの人数を増やしたので、受講者の質問に即座に対応ができた。他人の質問を聞いて、他の受講者も共有していた。基本的な操作を中心としたのでゆっくりと進めることができた。

1回目は、スマホの基本的な操作である文字入力の方法・公民館のWi-Fiにつなぐ・ユーチューブで興味のある動画を検索。Wi-Fiの意味を理解できていない受講者が多かった。

2回目は、地図アプリで乗換案内や道順がわかったり、航空写真で自宅を探したり、外国の地図を検索し、有名な建造物を見て、今まさにその場にいるかのような気分を味わった。また、カメラアプリで、ピントの合わせ方、動画の撮り方、グーグルレンズで撮影して検索。しかし、この回が、「1番難しかった」との感想が多かった。

3回目は、フォトアプリで自分の撮影したものを確認し、画像の編集。ラインアプリの使い方。半数の受講者が概ねできていた。

初心者を対象としたが個人差があった。全般的に文字入力時、指がスムーズに動かさなく、スマホの画面を間違っると操作していた画面に戻れなくなる受講者が多かった。

《受講者の感想》

- ・1人でスマホに触るのが恐かったので、電話とメールのみ使用していましたが。講座に参加し、丁寧に教えて頂き興味がでてきました。難しいところもありましたが、楽しかったです。もっと知りたいです。
- ・半分くらいわかったかな。この場でできても次にやる時にやり方がわからない。もっと初歩からお願いします。
- ・Wi-Fiを少しは理解できたと思います。できれば5回してほしいです。
- ・楽しみが増えました。メニューが多く、使いこなせるかな。

<課題>

今後は1つの機能に焦点をあてて講座内容を明確にする。



②ノルディックウォーキングで健康寿命をのばそう

<状況・成果>

9/29、10/6・13（基本編）木曜日 13時半～15時半 全3回 受講者9人

11/4、12/2（応用編）金曜日 終日 全2回 受講者11人

講師 松田 浩一（NPO 法人日本ノルディックウォーキング協会公認インストラクター）

9、10月は、1回目はホールで基礎知識、ポールの使用方法の説明を受けた。2回目は近隣の公園周回コースを、3回目は隣町までのショートコースを実践した。受講者の中には経験者もあり、改めて自分のフォームの確認、初心者へのアドバイスなど受講者同士の交流があった。

11月は、とんぼ池公園までの往復（上り下りのコース。約12キロメートル）。往路は上りが多かったが、会話を楽しみながら歩くことで予定より早く休憩場所に到着。その後公園内の目的地へ全員でゴール。現地で昼食を取った。復路の道中は若干言葉数も減り、疲れも見られたが多くの者が集団でゴール。若干遅れをとったグループも無事にゴールし、共に達成感を味わった。早速、次回京都の話をする者や、それまでにトレーニングを積むと力強く発言する人もいた。

12月は、京都方面で出町柳駅から南禅寺まで（約5時間のコース。約15キロメートル）。まずは、白川疎水通を目指した。色づく紅葉が美しかった。地元の人々の生活道路を進むため、並んで会話も楽しめた。正午頃、植物園に到着し、トンビを警戒しながら昼食を取った。園内の紅葉状況は見頃を終えていたため、長居はせず、次の目的地を目指した。半木の道を通り、鴨川沿いを延々進む。若干ペースに差が現れたが、有名な飛び石のある場所で休憩を取り、再度笑顔を取り戻した。その後もまだまだ道のりは続く。講師の背中を黙々と追いかけて、全員で無事最終目的地にゴール。口々に歩数を確認し合う姿が印象的だった。歩数は約3万歩弱。歩幅が約70cmとすれば、単純計算で約21kmだと講師が説明した。全員、疲労困憊の様子ではあったが、年齢のことを考えると、個々のスタミナには驚愕した。

<課題>

新規受講者確保のために、開催時間や曜日を検討する。

ノルディックウォーキングの効果を高めるための内容を検討する。



基本編（山手地区公民館ホール）



応用編（とんぼ池公園）

ダイエットボクササイズ

<ねらい>

働き世代に公民館を知ってもらう機会とする。

身近な公民館で、気軽に運動を始めるきっかけづくりとする。

<状況・成果>

5/16・30、6/13・27 月曜日 全4回 19時半～20時半 受講者21人

講師 梅本 道代 (NPO 法人いきいき・のびのび健康づくり協会理事)

定員25人のところ、応募者多数のため抽選となった。受講者は初回21人から最終回14人と減少傾向ではあったが、最終回で取ったアンケートでは全員が満足という結果であった。50、60代の参加者が多く、再度実施するなら参加したいという声が多く、講師の人气が非常に高かった。

一方、受講者が減少傾向となった原因は、内容がハードであったため、やさしいトレーニングを想像していたものと推測される。

《受講者の感想》

- ・全身を使うことがこんなに気持ちが良いとは！翌朝すっきりしていたことに感動でした。先生が格好良くて終始楽しく受講できました。楽しい4回の講座でした。
- ・体を動かす機会を作って頂いてありがとうございます。運動っていいなあと改めて実感しました。先生のお人柄もとても素敵で元気を頂きました。どうもありがとうございました。
- ・とても楽しくあっという間の1時間でした。回を重ねるごとにハードになっていきましたが、何とかついていくことができました。先生の声も大きくわかりやすくとても楽しかったです。中々ダイエットまでとはいきませんがやっぱり体を動かすことは大事だと思いました。60代になって色んなことにチャレンジしていきたいと思います。
- ・多分私が年長です。60代向けのカリキュラムにしてもらえるとよりいいかな。ゆるいのはアカンけど。先生のファンです。メリハリがあり指導はうまい。
- ・本当に楽しかった！また19時半～始めてほしいです。主人に子どもをみてもらって毎回スッキリ！本当に体が軽くなりました。又、楽しみにしています。

<課題>

講座内容をより詳しく掲載するように努める。

運動不足解消！

ストレス発散！

公民館で夜活



実用ボールペン・筆ペン講座～美しい文字への挑戦～

<ねらい>

新規利用者を増やすため、幅広い世代が関心をもつ講座を企画する。

講座終了後も継続して自主活動につながるよう働きかけを行う。

<状況・成果>

11/11・25、12/9・23、1/13 金曜日 全5回 10時～11時半 受講者19人

講師 南 裕子（まちのすぐれもの登録者）

定員15人のところ、19人の応募があり、講師と調整の結果、最大20人まで、職員を2人態勢とすることで定員を変更した。また、平日の午前ということもあり受講世代は50代以上となった。問い合わせの中には午後や夜間の時間帯の講座開催を望む声があった。

講座の内容は、講師の提案により、第1回「基本練習（ひらがな、カタカナ）」、第2回「手紙文、漢字かなまじり文」、第3回「年賀状、宛名」、第4回「のし袋」、第5回「実践（手紙や作品作り）」とし、教材は、毎回講師オリジナルのものを使用した。第1回から多くの受講者が筆ペンに興味を示し、ボールペンと筆ペンのどちらで練習しても良いこととした。

各回、各々真剣に練習に取り組む姿が印象的で、受講者の半数以上が積極的に講師に質問や相談を行い、学習意欲が感じられた。自主活動への働きかけとしてアンケート調査を行なった結果、今後もペン学習を継続したい、クラブがあれば参加したいという声が多くあったため、最終回で自主活動に進めるための手順を説明したが、自主グループの発足には至らなかった。



《受講者の感想》

- ・高齢になると字を書くのが億劫になる。こういう機会は大変嬉しい。
- ・今回は日時が参加できるようにでしたので参加できて良かったです。
午後からなど時間帯があれば家族もやってみたいという声もありました。
- ・参加させて頂きありがとうございます。良い時間を持たせて頂いております。日々中々練習できませんが、今後なるべく時間をつくり練習したいです。手書きの年賀状を頂くと嬉しいものです。今年なるべく筆で書きます。このアンケートを書くときも気をつけてきれいに書けるようになりたいです。筆は小学校以来です。ありがとうございます。
- ・楽しく参加させてもらっています。ずっと続けてください。子どもたちもボケ防止に素晴らしいと進めてくれています。よろしくお願いします。
- ・山手地区公民館が自宅より遠いので中央や浜手でもペン字講座があると嬉しいです。
- ・字が少しでもきれいに書けるようになりたいので、もしクラブができれば参加していきたいと思います。
- ・いつもありがとうございます。字を書くのが苦手なのでこのような講座を開いて頂いて少しでも自分の字が好きになれるように参加しました。先生も優しく見守ってくれているので嬉しいです。
- ・基本をしっかりマスターしたうえで自分自身の個性を活かした文字を書きたいと考えています。ゆつたりした文字に憧れています。良寛とか無理ですが。

<課題>

幅広い世代の参加を考慮して要望のあった午後又は夜間の講座開催を検討する。

ふれあい料理

<ねらい>

障がいのある人が主体的に料理実習にかかわることで社会参加へつなげる。

受講者同士やボランティアとの交流を図る。

<状況・成果>

5/20～3/17 金曜日 全10回 10時半～12時半 受講者 延べ83人

4月に施設職員・ボランティア・公民館職員の打ち合わせを開催した。ある施設は、施設外へはまだ出ることができないが、参加の意思はあり、今後もつながりを持ちたいという施設職員の思いがあった。その施設にはおふくろの味を届けるためにお弁当を作って配達することとした。また、別の施設では、コロナ禍で利用者は外出しない習慣が付き、講座に誘っても参加してくれるかわからないということだった。

その結果、今年度も1施設ごとの参加とした。2つのテーブルに分かれて、料理ボランティアが3人ずつかかっていることで、余裕をもって進められた。参加があるかどうか不安のあった施設は施設職員の熱心な声かけにより継続して参加した。お弁当を届けた施設では、手渡す際にセレモニーが用意されていて、料理ボランティアに感謝の気持ちと手作りの品物が送られた。実習では、旬の材料を取り入れている。包丁が使える受講者には、切る作業をお願いし、包丁が使えない受講者には何が出来るか施設職員と相談しながら、なるべく受講者が体験できるように工夫している。感染対策としては、パーテーションの設置、黙食、使い捨て食器・布巾を使用した。

年度途中に「受入れ人数をもう少し増やせないか」と職員から提案したが、料理ボランティアも不安があり、施設側も職員不足で今以上の人数を連れて来ることができないということで現状のまま1施設ごとで参加を継続していくこととした。



<課題>

アフターコロナを考慮しながらも受講者が安心して参加できる体制づくりをする。

| 月 | 献立 | 参加施設 |
|----|---|--------|
| 5 | カレーライス、春野菜サラダ、フルーツミルク寒天 | ほっこりの里 |
| 6 | キンパ、レタスとわかめのスープ、あんみつ寒天 | みずま |
| 7 | 冷麺、かぼちやの煮物、ういろう | ほっこりの里 |
| 9 | お弁当:きのこご飯、から揚げ、ししとうの甘辛、さつま芋甘煮、だし巻き卵 | ほっこりの里 |
| 10 | いわしのかば焼き、月見団子煮、餃子の皮でアップルパイ、 | ほっこりの里 |
| 11 | 鮭のホイル焼き、野菜サラダヨーグルトドレッシング、りんごのコンポート | みずま |
| 12 | いなり寿司、ひじきの煮物、フライドキチン、フライドポテト、ツリーブロッコリー、カップケーキ | こすもすの里 |
| 1 | キャベツの花しゅうまい、もやしのナムル、安倍川餅 | ほっこりの里 |
| 2 | ミネストローネ、白菜サラダ、牛乳寒天 | みずま |
| 3 | 五目ちらし寿司、鶏の照り焼き、わけぎのぬた、吸い物 | ほっこりの里 |

ロビーコンサート

<ねらい>

身近で気軽に生の演奏を楽しむ機会とする。

市内で活動する音楽家の発表の場とし、内容の企画・運営についても自主的に進める。

<状況・成果>

奇数月 第3火曜日 全6回 12時半～13時半 参加者 延べ344人

3年ぶりに参加人数の制限をせず、入場時の検温と健康チェックシートの提出だけで実施した。

出演者は、飛沫対策や客席との距離をとり、来場者にはマスクの着用と席間を十分とる等感染対策をして行なった。

今年は、企画段階で童謡や懐メロ等参加者が気軽に口ずさめるような曲を織り交ぜ選曲してもらった。

本格的なクラシックを楽しめ、時には童謡やポップな曲と懐メロまで幅広いプログラムに参加者も口ずさみながら楽しんでいた。

《参加者の感想》

- ・やっぱり生の演奏はよかった。
- ・コロナ禍で音楽を聴く機会も少なくなったけど、やっと生の演奏を聞くことができてよかった。
- ・クラブの終わった後や、待ち時間に気軽に参加できるようになり、楽しいひと時を過ごせました。
- ・申込みもせず、以前のように気軽に参加できるようになりよかったです。

<課題>

プログラム作成の選曲に童謡や懐メロなどをどんどん取り入れてもらう。

若い世代が気軽に参加できるような内容も企画する。

| 月日 | 内 容 下段：出演者 | 企画 | 参加人数 |
|-------|--|----|------|
| 5/17 | ～心ほっこりクラシック～ 今川知恵子・西規子・三井好子 賛助出演：山田悠・三井梨愛 | B | 57 |
| 7/19 | クラシック名曲コンサート ～二人のソプラノがお届けする夏のハーモニー～ 大原陽羽・西村文花 賛助出演：安枝まなみ | ク | 61 |
| 9/21 | ～癒しのハーモニー～ 南部紗奈乎・上山百恵・大浦慶子 | ク | 46 |
| 11/15 | ～心に残るふるさとの秋～ こも池博子・今川知恵子・西規子・三井好子 | B | 42 |
| 1/17 | 新春に奏でる ～箏とフルート～ 岡部雅浪・今川知恵子 | B | 71 |
| 3/14 | 春が来た ～スプリングコンサート～ 佐々木涼輔・北野知子・田所千佳 | ク | 67 |

※「企画」欄のB=アンサンブルBUNS、ク=貝塚市クラシック音楽家協会



第10回 たまねぎ劇場

<ねらい>

市民グループの発表の場として、皆でひとつの事業を企画・運営する。

地域で活動しているグループに発表の場を提供。

貝塚市の文化の裾野を広げる。

<状況・成果>

4/10 日曜日 13時半～15時半 参加者 50人

今年は予定した日程で開催ができた。4グループが集まり、実行委員会の会議を3回行なった。ちらし作成・出演順・役割分担を決め、当日の舞台スタッフも少ない人数ではあったが、協力して進めることができた。また、グループ間の交流も深まった。出演者自ら広報活動に力を入れ、観客の増加につながった。今回初めて可動観覧席を使用したことで、出演者は気持ちよく演奏できたという感想があった。ピースマイルの男性グループは、回を重ねるごとにステージ衣装を考えたり、かつらをを用意するなど演出効果も考えるようになってきた。また、出演者からは照明のあて方に注文があった。

演目の合間にバレエの出演者がストレッチ体操を取り入れたり、「わだち」グループはソーラン節を観客全員と一緒に踊る等会場が盛り上がった。ロビーではパンとコーヒーの提供があった。

<課題>

出演者の演出効果への要望が高まりつつあり、どこまでその要望に応えられるかが課題である。

| 出演者 | 内容 |
|------------------|--------|
| 朗読劇グループ「ことの葉」 | 朗読劇 |
| しえるバレエクラブ | バレエ |
| ビートルズバンド「ピースマイル」 | 軽音楽 |
| 和太鼓・民舞サークル「わだち」 | 和太鼓・民舞 |



ピースマイル



ソーラン節体験



わだち

アフタヌーンライブ

<ねらい>

身近で気軽に生の演奏を楽しむ。

地域で活動しているグループに発表の場を提供する。

公民館を利用していない人たちに公民館を知ってもらう。

<状況・成果>

5/1 日曜日 14時～16時 参加者 85人

泉州地域を中心に活動している「マリア（ボーカル）と猫の手（ピアノ）・鷹の爪（ギター）」3人グループに出演を依頼した。普段は市外のカフェやイベントで演奏活動をしていることもあり、参加者の半数は市外からであった。

テーマを決めて3部構成（赤・青・黄色のイメージ）で18曲演奏。ポップス、ジャズなど懐かしい歌や馴染みのあるスタンダードナンバーを披露した。ライブ中のトークもあり、観客を楽しませた。

また、出演者からも「こんな広いホールで演奏できて、しかも照明効果もあり、気持ちよく演奏ができた」との感想があった。

<課題>

地域で活動しているグループの発掘。

ファミリーコンサート

<ねらい>

幅広い年齢層に親しまれているジブリの世界を歌と小編成アンサンブルを通して、家族で楽しむ機会とする。地域の音楽家に活躍する場を提供する。

<状況・成果>

11/13 日曜日 14時～15時 参加者 152人

出演 角野芳子（企画・指揮・案内人）、池上尚里（ヴァイオリン）、長井慧巳（サクソ）、平松靖子（電子ピアノ）、安枝まなみ（ピアノ）、西村文花（ソプラノ）、加藤真由子（ソプラノ）、ファミリーアンサンブル（7人）

山手クラブ講師でもある角野先生の企画で開催。生のオーケストラでプロとセミプロの共演。本番までに5回の練習を行い、振付から衣装合わせまで念入りに行なった。出演者も広報に積極的にかかわってくれた。小さな子どもの参加も多く、一緒に口ずさんでいる様子も見られた。途中ジブリに関するクイズコーナーもあり、会場は盛り上がった。

《参加者の感想》

- ・子どもも大人も楽しめた。聞き覚えのある曲ばかりだった。本格的な歌声で感動した。
- ・迫力がありとてもひきこまれそうでした。
- ・身近な所で子連れのコンサート、もっとやってほしいです。

<課題>

今後も家族で気軽に参加できるような事業に取り組む。



人形劇公演&オカリナ演奏

<ねらい>

人形劇を通して親子で生の舞台にふれる機会。
公民館クラブの活躍する場とする。

<状況・成果>

12/17 土曜日 10時半～11時半 参加者 50人

出演 貝塚市立中央公民館クラブ「人形劇あひる」「オカリナふぁみりあ」

2クラブのコラボで、人形劇「どらゴンのともだち」・パネルシアター・オカリナ演奏を行なった。オープニングでは、人形劇あひるのテーマ曲をオカリナで演奏し、子どもたちをひきつけた。主人公のどらゴンが、りんごのことを本当にともだちと思い込み、りんごにしゃべりかけている様子に子どもも大人もどンドン話に引き込まれているようだった。パネルシアターやオカリナ演奏も参加型の内容で楽しそうであった。

《参加者の感想》

- ・初めて参加しました。眼鏡をしても見えなくて、物事に集中しにくい子なのですが、今日は始終物語の世界に入れて「とてもたのしかったね」と満面の笑顔でした。
- ・孫が初めて見る人形劇、最初から最後まで集中して興味ある場面に笑ったりと楽しく見ている姿に、祖母もうれしかったです。オカリナも知っている曲に口ずさみ生の演奏良かったです。

<課題>

人形劇だけでなく音楽なども取り入れた内容を工夫し、親子や孫と一緒にいろんな世代が参加しやすい事業を今後も取り入れていく。

クリスマスコンサート

<ねらい>

親子で生の音楽にふれる機会。
地域で活動しているグループの発表の場。

<状況・成果>

12/25 日曜日 10時半～11時半 参加者 55人 出演 音楽グループ「かたつむり」

出演は、ヴォーカル3人、ピアノ1人のグループで、大阪・泉州を中心に活動している。活動歴は20年ということで4人の息もぴったりで、子どもから大人までよく知っている曲がほとんどだった。

子どもたちは、知っている曲があると口ずさんだり、手遊び歌と一緒にやったり、サンタの衣装を身につけて来る子もあり会場が盛り上がっていた。

《参加者の感想》

- ・クリスマスの日に彩りをそえていただき楽しかったです。
- ・歌の間に身振り手振りをしながら歌われていて、雪の情景など、うたの世界が目に見えるようでもひきこまれました。

<課題>

親子で参加しやすい事業を取り入れ、若い世代に公民館に足を運んでもらうきっかけをつくる。



水間末廣座

<ねらい>

生の舞台をとおして古典芸能にふれる機会を提供する。

<状況・成果>

1/29 日曜日 13時半～15時 参加者 120人

出演 桂 文昇（落語家）、露の新幸（落語家）、千田 やすし（腹話術）

開催場所を水間寺から山手地区公民館ホールに移して3年目となる。

窓口、電話又はメールでの事前申込制とし、定員を200人とした。前日までの申込数は約100人。準備は受付場所に提灯をぶら下げ、一枚板の看板を設置した。人数の把握方法はアンケートの配布をもって行なった。

当日は「露の新幸→桂文昇→千田やすし→桂文昇」の順番で演目が披露され古典芸能「落語」と人形ひかるちゃんとの「腹話術」で大いに笑った。参加者の多くは高齢者であったが親子で参加する家族もいた。ちらしに記載した「みんなが集い、笑える場をご提供します」が実現した。

大きなトラブルはなかったが、「注意されているのに携帯が何度も鳴ってうるさかった。あれはヒドイ」、「演じている途中の出入りご遠慮くださいと案内してほしい」といった意見があった。

<課題>

観覧マナーの徹底。



舞台



客席

ふれあい料理ボランティア

<ねらい>

障がいのある人が主体的に料理実習に関わることで、自立や社会参加へつなげる支援を考える。
ボランティア同士の交流を深める。

<状況・成果>

定期登録者 6 人

登録者が昨年度より 1 人増加した。4 月に障がい者施設職員・料理ボランティア・公民館職員で話し合いをし、講座再開に向けて、それぞれの立場から意見を出し合って情報交換を行なった。

その結果講座は、コロナ禍で施設側や料理ボランティアの不安を和らげるために毎月 1 施設ごとの参加とした。

毎月の開催でボランティアが集まることができ、受講者と楽しく会話しながら料理を進めている。ボランティアは、まだ外出許可がないということで、弁当を届けてほしいという施設の要望にも快く引き受けてくれた。毎回講座終了後は反省会を行い、受講者へのかかわり方の確認や次回の方材料確認を話し合っている。また、3 密を避けるためのパーティションの利用、手指消毒の徹底、使い捨て食器の使用、食中毒対応には気をつけている。

今年度から有志で、障がい者施設でのボランティアを引き受け、公民館での学びを地域で生かしている。

<課題>

通常開催を目指してボランティアと時期や実習内容を相談する。

保育ボランティア

<ねらい>

子どもが安全・安心に過ごせる保育環境づくり。
ボランティアが主体的に関われるような場の提供。

<状況・成果>

定期登録者 7 人 不定期登録者 9 人

保育付き講座「子育て×自分磨き」子ども 8 人 「子育てセミナー」子ども 4 人

新規ボランティアの 2 人が中央公民館でのボランティアを兼ねているので、双方の様子を伝えてくれる存在となった。今年度の連続講座の始まりは、9 月からで、ボランティアの顔合わせも遅いスタートとなった。代表者を決め、ボランティア間で連絡をとれるようにラインでつながり、出席できる日程を確認するためラインスケジュールでアンケートを作成してくれた。今まで職員がボランティアの人数調整をしていたが、ボランティアが自主的にしてくれることとなった。

事前準備や保育講座終了ごとの反省会を通じて話し合う場を重ね、気がついたことなどを共有した。子どもに対するボランティアの個々の対応も様々で、ボランティア相互の学びになっている。

<課題>

今後も保育体制について、保育ボランティアとともに考えていく。

おさんぽかばさん

<ねらい>

先輩ママから子育ての悩みについて気軽に相談できる場を提供し、乳幼児をもつ親の交流を図る。地域でのつながり作りを目指す。

<状況・成果>

(前期) 5/17～6/14 火曜日 全5回 10時～11時半 参加者 延べ8組

参加者を増やすため、東山自治会の一部にポスティングをしたが参加はなかった。

初回は水間寺客殿を使い市外からの参加者が1組あった。ボランティアと交流し、「次回はお友達を誘ってくる。こんなすばらしい場があることを初めて知りどんどん宣伝します」と言ってくれた。

その後も参加者は少しずつ増えたが、最終日は今まで参加してくれた人の学校行事と重なり参加はなかった。

(後期) 10/4～11/1 火曜日 全5回 10時～12時 参加者 延べ5組

コロナの影響で地域での開催ができなかったため、当館保育室で実施した。子育て中の親子の参加があったが、今回も参加者は増えなかった。

<課題>

参加者が増えない理由や内容の見直し等開催に向けて検討する。

【参考】ほかでもがんばっているよ

山手地区公民館活動協議会所属クラブやグループの地域活動

| 回 | 月日 | クラブ | 会場 | 備考 |
|---|-------|----------|---------------|--------------------------------|
| 1 | 6/28 | 沖縄三線あかばな | 市やすらぎ老人福祉センター | 連続テレビ小説「ちむどんどん」で歌われている歌を中心に楽しむ |
| 2 | 7/30 | 沖縄三線あかばな | 市立青少年人権教育交流館 | 子どもたちの自作太鼓作りと歌・演奏を楽しむ |
| 3 | 8/24 | 沖縄三線あかばな | 蛸地藏天性寺 | 地藏盆の参拝者と「唄&三線」で交流 |
| 4 | 11/6 | 沖縄三線あかばな | 岸和田市三ヶ山町 | 同町の畑の中で「唄&三線」で交流 |
| 5 | 11/14 | 沖縄三線あかばな | デイサービス庵 | 恒例の「カチャーシー」で交流 |
| 6 | 11/20 | 沖縄三線あかばな | 岸和田市上松町会館 | 上松ふれあいイキイキサロンより依頼 |
| 7 | 12/13 | 沖縄三線あかばな | 海塚町会館 | 海塚町老人クラブより依頼 |

移動公民館

<ねらい>

近隣の地域住民の交流の機会をつくる。

様々な条件から来館できない人に公民館活動を知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

《東山いきいきクラブ》

10/7 金曜日 10時～11時半 参加者 20人

2/10 金曜日 10時～11時半 参加者 20人

毎年のように依頼があり出かけている自治会なので、職員とも顔見知りの人や公民館利用者も多い。老人会が結成して10年という新しい団体だが年齢も60～90代と幅広く、会館まで来れない人を送迎するなど、互いに支え合う関係づくりができています。

10月は、つげさん体操・グループ対抗で新聞を使ったゲームやコーンゲーム・紙芝居（民話を題材）「地藏堂のタヌキとタニシ」「黒岩の織り姫さま」を通して貝塚の歴史を伝える機会となった。

2月は、社会人で全盲の邪乱亭地車（じゃらんでいだんじり）さんに出演を依頼。古典落語を披露してくれた。また、視覚障がい者との接し方も学び、気づきの場となった。

毎回終了後は茶話会を行い、この日の感想を聞いたり、公民館のチラシを配布し宣伝を行なった。



《名越ほほえみクラブ》

2/8 水曜日 13時半～14時半 参加者 12人

老人会のクラブ活動として毎月1回集まり、よさこい踊りや健康体操を行い、高齢者の居場所づくりとして取り組んでいる団体。移動公民館の要望があり、ニュースポーツ「コーンゲーム」、「ボッチャ」を紹介した。初めに他者紹介（隣の人の名前とどんな人柄かを紹介する）を行い、日頃よく知っている人同士でも改めて紹介すると恥じらいもあったが、ほめてもらえると嬉しそうであった。

<課題>

積極的に地域に出向き、コミュニティの形成へとつなげる。

木島・東山校区夏休み映画会

<ねらい>

木島・東山校区福祉委員会と連携し、地域活性化につなげる。

<状況・成果>

7/31 日曜日 ①13時 参加者 86人 ②15時 参加者 103人 映画「すみっコぐらし」
コロナ感染拡大で、地域のふれあい喫茶や子ども会活動が中止となる中での開催だった。

校区福祉委員が会場準備や受付を分担し、公民館は整理券の受け渡しや当日の映写機材の準備を行なった。子どもたちに人気のあるキャラクターの映画を夏休みに鑑賞する機会となり、「身近な公民館で気軽に親子で楽しむことができた」との感想が多く寄せられた。

<課題>

今後も地域からの要望があれば連携して取り組んでいく。

貝塚三中軽音フェスティバル

<ねらい>

すいてつ沿線魅力はっしん委員会と連携し、地域活性化につなげる。

<状況・成果>

9/4 日曜日 13時～15時 参加者 200人

出演 貝塚市立第三中学校 軽音学部演奏（4バンド）

ドラマ「ラブソングのつくり方」茂野 隆之（脚本家）

半熟 BLOOD 演奏（鉄道系音楽グループ）

水間鉄道沿線の地域資源「もの」や地域住民「ひと」の魅力を紡ぎ、その魅力を全国に発信することで貝塚市を盛り上げていこうと地域住民と行政が一緒になって取り組んでいる。今回は、音楽で盛り上げようと企画。地元中学生によるバンド演奏は2、3年生が出演。2年生は初めての舞台ということもあり緊張気味であったが、3年生は最後のステージで堂々とした演奏だった。

ドラマは、水間寺周辺をロケ地とした高校生バンドの話で、撮影場所として当館も入っており、映像を通すと身近な風景でもまた違った景色に見えたようだ。

<課題>

今後も地域からの要望があれば連携して取り組んでいく。

認知症について学ぼう

<ねらい>

木島校区福祉委員会と連携し、地域活性化につなげる。

<状況・成果>

2/18 日曜日 13時半～15時半 参加者 114人 講師 石田 竜生（介護エンターテイメント協会）

企画について役員より相談があり、以前公民館で取り組んだ事業を紹介。高齢化問題という地域課題を取り上げ、芸人でもある石田氏の楽しい話術で認知症を理解する機会となった。

<課題>

今後も地域からの要望があれば連携して取り組んでいく。

山手地区公民館まつり

<ねらい>

日頃の公民館活動の成果を発表する場とし、クラブ員同士や協賛団体と協力して公民館まつりをつくりあげる。

実行委員会が中心となって部会の役割を明確にし、主体的に運営できるよう支援する。

<状況・成果>

10/19 土曜日 10時～16時（展示のみ）、10/20 日曜日 10時～15時

参加者 延べ1,123人（2日間） 参加団体クラブ36 協賛団体7

テーマ Goto! ヤマチク～次のステップへ～ オープニング 貝塚よさこい舞人

実行委員会は定例会開催月の関係もあり、7月に立ち上げて例年より1か月早くスタートした。3年ぶりのまつりということもあり、全クラブと協賛団体の参加で取り組んだ。5回の実行委員会を開催し、各クラブ、協賛団体から舞台部会、展示部会、模擬店部会の3部会に分かれ準備を進めてきた。

当日は、地域のよさこいグループ貝塚よさこい舞人の迫力ある演舞を皮切りに第31回山手地区公民館まつりをスタートした。舞台発表では、舞台発表のクラブや観客は少なかったが事前の調整もあり進行はスムーズにできた。会場の飾りつけも一新しコロナ対策も万全に行う体制をとっていたので、安心して家族や友人に来てもらい楽しんでもらえた。展示は、今年から全クラブの展示場所を2階へ移したこともあり来場者にとってはスムーズに見学できた。模擬店は、出店数は少なかったものの久しぶりの模擬店で遊びコーナー、食べ物関係も行列ができていた。



舞台発表

全体的には、受付で検温済者にリストバンドの着用を求めたが、特に混乱もなく、逆に来場者数の把握面で役立った。また、模擬店の出店などもあったため、昨年のクラブ発表会より参加する人も多く賑やかであった。

駐車場は善兵衛ランド、3中、農協を確保したが、農協は出入庫の時間規制をしていたため、ほとんどが善兵衛ランドに駐車することとなり一般来場者の駐車場所が確保できず、帰られた人もあり苦情があった。

<課題>

一般来場者及び公民館まつり関係者駐車場の確保に向け検討していく。

模擬店の出店を広く地域の各種団体に呼びかける。



作品展示



模擬店

ロビー活用

<ねらい>

いつでも誰でも気軽に利用でき、交流できる空間づくりに努める。

文化事業や気軽な作品発表の場、啓発や事業案内などの情報提供の場として活用する。

<状況・成果>

コロナ禍の当初はロビーでの遊び道具を使用禁止としていたが、規制を解除した後は自由に使えるようになりロビーで遊ぶ子どもたちが帰ってきた。

図書コーナーの規制も解除し自由に本を読める場とし利用者も戻りつつある。

ロビー展示については、コロナの影響もあり、昨年に引続き少なかった。クラブの作品展示についても予定通りできなかったり、みんなのロビー展も今年は少なかった。

三館利用者連絡会の展示交流は定着しつつあり、今年も開催し、開催時に利用者名簿の記帳だけでなく展示やクラブへの感想など“ひと言メッセージ”を書いてもらえるよう工夫をし、それぞれの公民館クラブの作品展示への感想などが寄せられ好評であった。

また、夏の子ども講座の壁新聞を展示し、協力クラブの活動の様子なども知らせることができた。

その他「かいづか家族の日」の受賞作品展、文化協会展や貝塚市の啓発展示をはじめ、市や貝塚警察などの啓発動画や中央・浜手地区公民館のまつりの様子などを発信してきた。

<課題>

気軽に作品展示を行えるよう工夫と発信を行う。



七人のロビー展（貝塚公民館クラブ有志）

【クラブ作品展】

| | |
|-----|-------------|
| 6月 | 陶芸・ろうの花・絵手紙 |
| 7月 | 水墨画・陶芸・ろうの花 |
| 8月 | 水墨画・陶芸・ろうの花 |
| 9月 | 陶芸 |
| 12月 | 陶芸 |
| 1月 | 陶芸・パッチワーク |
| 2月 | 手編み工房 |
| 3月 | 水墨画・陶芸・木工 |
| 4月 | 陶芸・木工 |

【みんなのロビー展】

| | |
|-----------|------------------------|
| 5/24～6/12 | 貝塚の城址展（則岡耕治作品展） |
| 7/5～15 | 鎧兜展示（海岸寺を考える会） |
| 9/1～15 | 人形劇「あひる」作品展（中央公民館） |
| 9/9～11 | 文化協会展（貝塚文化協会） |
| 11/12～20 | 七人のロビー展（貝塚公民館クラブ有志） |
| 11/20～28 | 「かいづか家族の日」受賞作品展（社会教育課） |
| 1/17～2/7 | 絵画展（浜手光絵画クラブ） |
| 2/9～19 | 日本の名城写真展（則岡耕治作品展） |

※「陶芸」は(昼)と(夜)で調整

※「花を楽しむ会」は随時

山手地区公民館活動協議会

<ねらい>

活動協議会の主体的な活動を支援し、協働・連携をはかっていく。

クラブ運営における様々な課題をみんなで考え、解決できるように共に考えていく。

<状況・成果>

クラブ数 36、クラブ員 424 人（11 月 1 日現在）、役員 7 人

昨年度から 2 クラブ増え、役員体制は前年度に引続き留任、定例委員会は 2 か月に 1 回開催した。

4 月の総会で年間の事業計画を決定したものの、各部会での話し合いにより主要事業である社会見学やさよならパーティーについては中止し、それに代わる事業をすることになった。役員会で何かホールを使った文化事業をしようと言うことになり、ジャズコンサートを 2 月に開催した。協議会主催のホール事業としては久々の取組みでクラブ員だけのコンサートにせず、一般に広く呼びかけ、盛大に開催した。

また、3 年ぶりに開催した公民館まつりは、コロナ感染対策を行い通常開催とした。7 月に実行委員会を立ち上げて、36 クラブ、7 協賛団体の構成で、5 回の実行委員会と舞台、展示、模擬店の各部会で準備を進めた。当日は 1,123 人の参加者があり、久しぶりの舞台発表に緊張気味なクラブ員もいた。模擬店は多くの来場者で賑わい午前中にはほぼ売り切れ状態になった。

協議会結成 30 周年の総括の上に立ち、協議会活動の在り方、事業内容の検討や役員選考の在り方などを、役員と職員、5 クラブから選出した代表委員で協議会活動検討委員会を組織し議論を重ねてきた。その結果、協議会の活動内容として、従来の社会見学やさよならパーティー等の事業だけではなく広くクラブ員から事業内容を検討するレクリエーション部会と協議会ニュースを中心とした広報・研修部会を設置し活動内容を一新していくこととなった。

検討委員会で議論してきた内容を定例会に報告し、各クラブからの意見を集約し、各クラブはレクリエーション部会、広報・研修部会のどちらかに所属し、協議会活動に関わっていくことになり、役員体制は、従来の立候補制、委員の互選から協議会所属クラブの輪番制度を導入した。

輪番制は 5 クラブが任期 2 年で毎年半数の役員を入れ替える体制となった。

<課題>

協議会の組織改革のスタートの年として、活動形態の定着に向け、役員、公民館職員がさらに連携を深め取り組みを進めていく。

(以下、4 月の総会)



利用者団体代表者会議

<ねらい>

公民館を利用する団体が公民館活動の理解を深め、公民館利用団体の交流する場とする。

<状況・成果>

5/9 月曜日 13時半（昼の部）・19時半（夜の部）

対象は活動協議会 36 クラブと当館を拠点に活動している自主グループ 16 団体で、ほとんどの団体の参加があった。前半は職員が「公民館ってこんなところですよ」をテーマに貝塚公民館の歴史や役割、公民館で何を学ぶのか等について説明した。

後半は、活動協議会加入クラブと自主グループに分かれた。クラブは、今年も活動協議会主催の新委員勉強会を同日開催し、委員の役割について役員から説明があった。自主グループでは、職員が進行役となり、お互いの活動を紹介することで各グループが公民館で活動している内容を知る機会となった。

<課題>

今後も公民館利用の在り方などを啓発するとともに利用団体が公民館活動の理解を深める場として実施していく。